「守破離で未来の便利（変革）を自分のものにする。」　2023.12.01

新社員の方と話していて驚かれましたが、今年で入社４０年目です。私が就職した４０年前にはスマホ、パソコンはもとより、携帯電話、デジカメ、コピー機すらもなく、図面は大きなドラフター（製図版）で手書きしていた時代です。当然、インターネットもメールもなく、今は普通に使っている便利な道具が何もない時代ですが、それが当たり前であり、別に疑問にも思わず、むしろ、手間や無駄を減らすことが当時のQCサークルの格好のネタでした。

４０年の間に仕事の環境は非常に便利になりましたが、今では当たり前の便利な道具がなかった昔はどうやって仕事をしていたかと思い返す出来事が先日ありました。当社を志望する学生が、知識向上の為の努力として、分からない専門用語はその都度インターネットで調べたと言ったのです。おそらく彼は不明点をそのままにせず、すぐに調べたと言いたかったのでしょう。でも私自身は同じ２０代前半の頃、仕事ではないですが、今も趣味であるバイクを自分で整備する為にバイク店用の整備マニュアルを入手して部品交換やセッティングの方法を学びましたが、当時、整備マニュアルの入手自体に苦労した上に、ベテランの作業から学んだり、失敗から身に付くコツも多々あり、今でも、知識・技術は努力して身に着けるものと思っているので、彼の行動のどこに「努力」や「苦労」「前向きさ」があるのかと違和感を覚えたのです。この違和感は、「門前の小僧習わぬ経を読む」の諺のように、やっていれば身に付くから、理屈は後回しで良いという世の中に既に変わりつつあるのかなという思いでもあります。

振り返ると、私が入社した頃の職場では、例えば連絡文書を作成する際、手書き原稿を元にタイピストの方が大量の活字の中からピンセットで一つ一つセットしてからタイプし、印刷室で必要部数を印刷してもらい、紙で回覧するなど、兎に角、手間が掛かりました。その後、今のWORDの機能を持つワープロ機が登場しても印刷には時間がかかり、プレゼン資料は印刷した文字を切り貼りして作成するなど、他に方法もなく、気が遠くなるような作業をしていました。

そして今、機械の進化、普及とともに世の中は大きく変わり、多くの方が仕事に限らず便利な道具を当たり前のように使いこなしています。また２１世紀以降のインターネットの普及は、双方向でのコミュニケーションや情報共有の一般化により、短期間で世界の在り方すら変えたように思います。おそらく今、我々が得ることが出来る知識・情報の量は、情報の入手しやすさも考慮すると10年前と比べてさえ、飛躍的に向上しているのではないでしょうか。

しかし、個人の能力、特に考える力が１０年前２０年前と比べ、大きく向上しているかといえば、非常に疑問に思います。例えば前述の学生はインターネット上の情報に頼らずに、十分な知識・情報を入手し、それを元に適切かつタイムリーな判断を下すことが出来るのでしょうか。そもそも、インターネット上の情報が正しいかどうかを判断出来ているかさえも疑問です。

実はそんなことを考えながら気になることがあります。きっとこれからも、我々は次々に現れる「便利(な道具)」をそれなりに使いこなすのでしょう。そして、おそらくは新たに登場する「便利」を受け身で使うだけなのです。しかし、自ら新たな「便利」を思いつき、技術的課題を乗り越え、世の中に普及させるような努力をせずに、我々はこの業界で生き残れるのか。・・・と思うのです。

これからの将来に我々が甘受する新たな「便利」の幾つかは、おそらく、今までのようなちょっとずつの進化ではなく、ある日突然に急激な進化を遂げ、あっという間に世間に広く浸透する「便利」、つまり「変革」なのだと思います。そして、当社のようなデータ産業は何かしら科学技術のブレイクスルーがあれば、仕事の進め方は元より、会社の在り方すら短期間で変えざるをえない業界なのかもしれません。例えば、メタバースの技術は、通信回線が６Ｇ、７Ｇと更に高速大容量化すれば、今はアニメっぽく、ゲーム的な内容が、現実と見まがうような世界に進化し、それをきっかけに一般化すると言われています。現実のオフィスがなくなりメタバース上のリアルなオフィスに出社する日も遠い未来の話ではないのかもしれません。・・・極論ですが、現実のオフィスの需要が減るのなら、建物の新築ニーズも減り、脱炭素には貢献するかもしれませんが、先々、我々の仕事はどうなるのか、という危機感すら感じます。

そんなのずっと先のことだと思うかもしれません。でも新型コロナの蔓延、戦争、震災、より急激な気候変動なども我々には予期せぬ突然の出来事であり、それにより世の中は急速に変化しました。生成ＡＩのような幾つもの技術的革新も我々には見えないところで日々着々と進んでいるはずであり、今後、我々は仕事のやり方をどう変えるべきか、どんなことが我々の仕事となりうるのかという近未来に目を向けた思考は、今、当社の誰にでも必要だと思います。

ちなみに、会社での古い写真を見返したところ、私のデスクにパソコンが登場したのは 1998 年頃です。皆さんは今、パソコンの画面がない机で仕事をする自分の姿を想像できますか。かつて社内でパソコンが普及し始めた初期に、パソコンがない机に座った私の上司が真顔で言った言葉を思い出します。「この波に乗らずに定年まで逃げ切れるかな。」と。・・・当然逃げ切れず、ぎこちない指使いでパソコンを使用していました。また、スマホの販売開始の初期に、早速スマホを手に入れた新しい物好きの後輩役付職が屋外での打合せの際に、必要な情報をその場で調べて、仕事がはかどったことを思い出します。この両者の決定的な違いは、変化に抵抗して保守的に行動するのか、それとも変化に融和して積極的に活用するのかの違いです。

茶道など芸道の守破離（しゅはり）。教わった型を守る、既存の型を破る、型から離れ新しいものを生み出すという考え方をもじり、「デジタルトランスフォーメーションの守破離」という言葉があります。「守」は真似ることと考え、既存の業務プロセスを自動化、デジタル化など新しい技術や形態に置き換えること。「破」はその中で良い事例を取り入れて改善すること。「離」は既存の枠組みを離れて自在な創造者として自走し、真の変革（ＤＸ）を始めることだそうです。

もしかしたら５年後には、仕事のやり方や会社の在り方が今とは全く変わっている可能性だってあります。２０代、３０代の皆さんはもちろん、ベテランの皆さんも、あと１０年位は今のやり方で仕事をしていれば大丈夫、将来のことはゆっくり考えよう・・・ではなく、今は既に過渡期だと考えて、きちんと興味のアンテナを上げ、見聞きする情報をもとに、これから何が起きるのだろうと想像したり、守破離の気持ちで、自分ならこうしてやると前向きに考えて自ら変革をけん引したりと、決して周囲に流されて翻弄されるのではなく、自分の意思と行動により、これから起きる変革の荒波を乗り切っていただきたいと思います。

「興味のアンテナ」と言いましたが、人や物事に積極的な興味や関心を持つことで、身の回りに存在するのに今まで見えなかったことや気づかなかった情報に気づくことがあります。例えば、車を買おうとすれば、街を走る車に自然と目が行きます。つまり、興味や夢を持つとその興味や夢に近づく行動を自然にしてしまうということです。また余談ですが人間関係も同じで、相手に関心を持たなければ相手のことはほとんど見

えてきません。職場の同僚との付き合いでも、人の行動に興味・関心を持つことは効果的なコミュニケーション（意思疎通）をしたり、相手の立場になって考え、チームとして力を発揮する為の基本となります。
皆様、是非、何歳になっても新しいこと、そして周囲の仲間の考えや行動にも興味・関心を持ち、これからやって来る未来の「便利」（変革）を確実に自分のもの、自分達のものにしてください。後になって後悔しない為に。